

2017年1月16日

日本イーライリリー株式会社

〒651-0086  
神戸市中央区磯上通 7-1-5  
www.lilly.co.jp

EL17-02

## 社員が歩き地域へ貢献、被災地支援へ繋げる 「中央共同募金会」と「ひょうごボランティアプラザ」に 380 万円を寄付

日本イーライリリー株式会社(以下、リリー)(本社:神戸市、代表取締役社長:パトリック・ジョンソン)は、社員の活動を通じて募った寄付金 380 万円を、東日本大震災と熊本地震の復興支援活動に役立てていただくため、「社会福祉法人 中央共同募金会(赤い羽根共同募金)」と、「ひょうごボランティアプラザ(社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会)」に寄付したことを発表いたします。

リリーは、阪神・淡路大震災を経験した神戸に本社を置く企業として、被災地支援活動を継続して行っています。今回の寄付金は、昨年で 8 回目の開催となった「リリージャパン・デイ・オブ・サービス※」という活動によるもので、社員が 2km 歩くごとに 1,000 円、ゴミ拾いなど社会貢献活動を行うごとに 500 円を算出、その合計金額を、会社から被災地支援に繋がる団体に寄付しています。2016 年度の活動は 9 月 29 日(木)から 10 月 18 日(火)にかけて実施され、のべ 2,837 名の社員が参加、ウォーキングの総距離は 6,382km、募金の総額は、3,831,000 円となりました。

尚、2017 年 1 月 15 日(日)から 18 日(水)にかけて開催されている、ひょうごボランティアプラザ主催の「東日本大震災 被災者招へい事業 2017」にリリーは協賛しており、今回の募金の一部が使用されています。



リリージャパン・デイ・オブ・サービスに参加し、  
ごみ拾いを行うリリー社員。



今回の寄付に対し、兵庫県知事 井戸敏三 様、  
兵庫県社会福祉協議会会長 吉本知之 様  
連名の感謝状をいただきました。

### ※「リリージャパン・デイ・オブ・サービス」について

米国に本社を置くイーライリリーカンパニーでは、毎年ある一日を『リリー・グローバル・デイ・オブ・サービス』と決め、世界各国の社員が地域貢献活動を行っています。その一環として、日本イーライリリーでは「リリージャパン・デイ・オブ・サービス」を約 20 日間に渡って行っています。被災地に赴くことが難しくても、間接的に被災地の復旧・復興支援に携わり、活動のやり方・内容を社員の自主性に委ねることができるため、全社員がさまざまな形で被災地を支援できる仕組みとして社員の意欲向上につながっています。

## **日本イーライリリー株式会社について**

日本イーライリリー株式会社は、米国イーライリリー・アンド・カンパニーの子会社で、人々がより長く、より健康で、充実した生活を実現できるよう革新的な医薬品の開発・製造・輸入・販売を通じて日本の医療に貢献しています。統合失調症、うつ、双極性障害、注意欠如・多動症(AD/HD)、疼痛、がん(非小細胞肺癌、膵がん、胆道がん、悪性胸膜中皮腫、尿路上皮がん、乳がん、卵巣がん、悪性リンパ腫、胃がん、結腸・直腸がん)、糖尿病、成長障害、骨粗鬆症、乾癬などの治療薬を提供しています。また、アルツハイマー型認知症、関節リウマチなどの診断薬・治療薬の開発を行っています。詳細はウェブサイトをご覧ください。<http://www.lilly.co.jp>

＜補足資料: リリーの行ったその他の被災地支援＞

### **兵庫県の若い世代で災害時に活躍する人材育成に繋げる 「熊本地震ひょうご若者被災地応援プロジェクト」について**

2016年4月、リリーは熊本地震の被災地支援のために1500万円を、日本赤十字社・「赤い羽根」中央共同募金会・ひょうごボランティアプラザに寄付しました。ふるさとひょうご寄附を通じて、ひょうごボランティアプラザに寄附した支援金をもとに、「熊本地震災害ひょうご若者被災地応援プロジェクト」が立ち上がりました。阪神・淡路大震災の経験を被災地の復興支援に活かすとともに、兵庫県の若い世代が全国で発生する災害支援で経験を積むことで、地元兵庫で災害発生時に活躍する人材育成にも繋げることを目的としています。

これまでに15団体が選ばれ、255人の学生(高校生・大学生など)が、熊本地震の被災地に赴き、復興活動を行いました。2016年12月にはこのプロジェクトに参加した学生の活動発表および意見交換会が行われ、震災支援活動における経験と学び、思いが共有されました。



2016年12月7日、日本イーライリリーが支援する「熊本地震災害ひょうご若者被災地応援プロジェクト」の活動発表および意見交換会の様子。